

高校生の「心を掴む」故事成語・五選

本編序章でも触れておりますが、一般的に漢文の故事成語は知識教養として見なされています。定番教材には生徒の既知の熟語ばかりが並び、授業でも語源の説明に終始することが多いため、高校生の知的欲求を満たすとは考えにくいところです。ここでは単元の合間に取り扱って生徒の関心を惹いた故事成語を五つ紹介します。

① 《余桃の罪》……若さにかまけるな!

昔者弥子瑕有_レ寵_ラ於_レ衛君_ニ。衛国之法_ニ窃_ニ駕_ル君ノ車_ニ者_ノ罪_ハ劓_{ナリ}。弥子瑕ノ母病ミテ、人間_ニ往_{キテ}夜告_ク弥子_ニ。弥子矯_{リテ}駕_リ君ノ車_ニ以_テ出_ツ。君聞_{キテ}而賢_{トシテ}之_ヲ曰_ク「孝ナル哉。為_レ母ノ之故_ニ忘_ルト_ニ其ノ別罪_ヲ。」異日_{与_レ君遊_ビ}於_レ果园_ニ、食_{ヒテ}桃_ヲ而甘_{シトシ}不_{シテ}尽_サ、以_テ其ノ半_ヲ啗_{ハシム}君_ニ。君曰_ク「愛スル_レ我_ヲ哉、忘_ルニ其ノ口味_ヲ。以_テ啗_{ハシム}ト_ニ寡人_ニ。」及_ビ弥子ノ色衰_ハ愛弛_ムニ、得_{タリ}罪_ヲ於_レ君_ニ。君曰_ク「是_レ固_{モト}嘗_テ矯_{リテ}駕_リ吾ガ車_ニ、又嘗_テ啗_{ハシム}ト_ニ我_ニ以_テテスト_ニ余桃_ヲ。」故_ニ弥子之行_ハ未_ダ変_ゼ於_レ初_メニ也。而_{シカ}以_テテシテ_ニ前_之所_ニ以_テ見_ルレ_賢而後_ニ獲_ル罪_ヲ者_ハ愛憎_ノ変_也。

(「韓非子」説難編)

【大意】衛の靈公に仕えていた美少年の弥子瑕は君主の寵愛を頼みにふるまっていた中で二つの大きな罪を犯した。

当初は許された弥子瑕だが、容貌が衰えたころに以前の罪が蒸し返されて処罰されるといふ愛憎の変化が描かれている。一つ目の罪とは病気の母を見舞うために画策した違法な霊公の車への不正乗車、二つ目の罪とは霊公のお供で果樹園に出かけた際に、彼が味見をした食べかけの桃（余桃）を霊公に手渡した「余桃の罪」である。

【鑑賞】現在、君主の愛情は変わりやすいことを意味する成語として用いられている言葉ですが、生徒自身に弥子瑕の身になって考えさせています。想像を巡らすと、君主に寵愛されていた若い頃に弥子瑕自身が成長していれば、もしかすると過去の罪が蒸し返されることもなく、不遇な最期は迎えなかつたのかもしれない。成長期に伎倆を磨かず調子に乗った生活を続けていると身の破滅を招くと読むこともできます。この故事成語を取り扱った際には、生徒は芸能界における同世代のアイドルや現在の自分自身にたとえながら、若くて許容されている時期に研鑽しないと、将来取り返しがつかないものとなると感じているようでした。

【発問例】

Q 故事成語「余桃の罪」を読んで、弥子瑕は二つの罪を許された後にどのようなふるまえばよかつたのか考えてみよう。

② 《葉公好龍》…「イメージ」による「ダメージ」

子張見^{しちやうまみ}ニ魯^ろ哀公^{あいつう}ニ。七日^{しちにち}ニシテ而^し哀公^{あいつう}不^ずレ礼^{れい}セ、託^{たく}シテ僕夫^{ぼくふ}ニ而^し去^るル。曰^いク「臣聞^{しんぶん}ク君^{きみ}ハ好^{このむ}ムト^トレ土^{つち}ヲ。故^{ゆゑ}ニ不^ずレ遠^{とほ}シトセニ千里^{せんり}之外^{の外}ヲ、犯^かシニ霜露^{さうろう}ヲ、冒^{をか}シニ塵垢^{ちんこう}ヲ、百舍^{ひやくしや}重^{ちゆう}躒^{じゆうけん}シテ不^ずニ敢^あヘテ休息^{きゅうしやく}セ、以^{もつ}テ見^みル^レ君^{きみ}ヲ。七日^{しちにち}ニシテ而^し君^{きみ}不^ずレ礼^{れい}セ。君^{きみ}之^の好^{このむ}ムレ土^{つち}ヲ也、有^あル^レ似^にタルニ葉公^{えつこう}子高^{しこう}之^の好^{このむ}ムニ龍^{りゆう}ヲ也。葉公^{えつこう}子高^{しこう}好^{このむ}ムニ龍^{りゆう}ヲ、鑿^{さく}シテ以^{もつ}テ写^しシレ龍^{りゆう}ヲ、鑿^{さく}シテ以^{もつ}テ写^しシレ龍^{りゆう}ヲ、屋室^{おくしつ}雕^{きう}文^{ぶん}以^{もつ}テ写^しスレ龍^{りゆう}ヲ。於^おイテ是^{こゝ}ニ夫^かノ龍聞^{りゆうぶん}キテ而^し下^{くだ}リレ之^のニ、窺^{うかが}ヒテ頭^{かう}於^ま牖^{まど}ニ、拖^ひクニ尾^びヲ於^ま堂^{どう}ニ。葉公^{えつこう}見^みテ之^のヲ、棄^かテテ而^し還^{かへ}リ走^はル。

失^ヒ其^ノ魂^ハ魄^ト一、五色無^シ主。是^レ葉公^ハ非^{サル}好^ム龍^ナ也。好^ム二夫^ノ似^テ龍^ニ而非^{サル}龍^ニ者^ナ也。今臣聞^ク二君^ハ好^ム一^レ士^ヲ。不^レ遠^シ之^ヲ千里^ノ外^ヲ一以^テ見^ル君^ヲ。七日^ニシテ不^レ礼^セ。君^ハ非^{サル}好^ム一^レ士^ヲ也。好^ム二夫^ノ似^テ士^ニ而非^{サル}士^ニ者^ナ一也。詩^ニ曰^ク『中心^ニ藏^ム之^ヲ。何^レノ日^カ忘^ル之^ヲ。』敢^{ヘテ}託^{シテ}而去^ル。』
〔新序〕雜事第五

【大意】魯の哀公のもとを訪ねた孔子の弟子子張は、七日間もの間、哀公の挨拶を受けずにほつたらかしにされ、その家臣に理由を話して立ち去る。哀公は士（すぐれた人物）を好むと言うので、遠いところ危険を冒して哀公を訪ねたが、面会もせずにおかれる始末。子張は立ち去り際に、これこそまさに「葉公好龍」なのではないかと言に残した。この「葉公好龍」とは、楚の家臣葉公子高が常日頃龍を愛して家屋には龍をあしらったり、龍の帯金を身につけたりしていた話を耳にした龍が葉公のもとに現れるが、葉公は本物の龍に慌てふためいて失神してしまう寓話である。結局のところ、葉公は「龍」ではなく「龍に似たもの」を好んでいたに過ぎなかったのだ。

【鑑賞】誰しも「本物志向」を持っていると思いますが、果たしてそれは本当でしょうか。一般に「本物」は人々の公認を受けるものですが、その反面で当該成語に描かれるように畏怖の対象として敬遠されることもしばしば見受けられます。むしろ、「本物」よりも「それっぽいもの」に価値を見出す傾向があることもまた一つの真理です。例えば、自然を満喫する人々も実際にはむき出しの自然ではなく、整理された人工的な自然を愛しているに過ぎないのかもしれませんが、「ミッキーマウス」を愛好する女子高生も本物の「ネズミ」を見たときにはさすがに悲鳴をあげると思いますが、これもまた「葉公好龍」とは言えないでしょうか。

【発問例】

Q 故事成語「葉公好龍」を読んで、実物と観念（イメージ）が異なっているもの（または魅力があるもの）とはどのようなものがあるか考えてみよう。

Qあなたにとつての「私らしさ」とはどういうものか、自分自身を見つめて考えてみよう。

③ 《狡兔三窟》…逃げ場所は多いほどよい

後期年、齊王謂^ニ孟嘗君^ニ曰^ク「寡人不^レ下^レ敢^テ以^テ先王之臣^ヲ為^レ上^レ臣^ト。」孟嘗君就^ク國^ニ於^テ薛^ニ。未^ダル^レ至^ラ百里、民扶^テ老^ヲ携^{ヘテ}幼^ヲ、迎^フ君^ヲ道^中ニ。孟嘗君顧^リ謂^フ馮諼^ニ、「先生所^ニ為^レ文^ノ市^ヘル^レ義^者、乃^チ今日見^ルト^レ之^ヲ。」馮諼曰^ク「狡兔^ニ有^リテ三^窟、僅^ニ得^ルレ免^ルル^ヲ其^ノ死^ヲ耳。今君^ニ有^リ一^窟。未^ダレ得^テ高^クシテ枕^レ而^臥ス^{コト}ト^ラ也。請^フ為^レ君^ノ復^タ鑿^ク二^窟ト^ラ。」

（『戦国策』「齊策」）

【大意】 齊の湣王に疎まれて宰相の職を解任された孟嘗君（田文）は領地である薛に入ったとき、食客の馮諼（馮驩）の事前の策により自身が領民からの信望を得ていることを知った。さらに馮諼はすばやい兎は三つの窟を持つこと（狡兔三窟）で難を免れるのに対し、孟嘗君には薛の「一窟」しかない点を危惧してあとの「二窟」を作る策を進言したものである。

【鑑賞】 身の安全のためにたくさんの避難場所やさまざまな方策を用意するたとえば、「国士無双」と称された韓信に由来する「背水の陣」の対義語に当たります。現代の高校生にとつては交友範囲が狭すぎると仲間との関係性がこじれたときに悩みの種になることがしばしばあります。そうしたときに備えて校内では部活動・クラス・委員会などのいくつかの居場所を持つことが望ましいものと思われれます。

【発問例】

Q 故事成語「狡兔三窟」を読んで、あなたが困ったときに悩みごとを真剣に相談できる人は身のまわりに何人いるか考えてみよう。

④ 《曲突徙薪》：プロメテウスの知恵

其ノ後霍氏誅滅シテ而告グルニ霍氏ヲ一者皆封^{ほう}セラルル。人為ニ徐生ノ一上書シテ曰ク「臣聞ク客ニ有リ下過グルニ主人ヲ一者上見ル三其ノ竈直突ニシテ傍ニ有ルヲ積薪」。客謂フニ主人ニ、「更ニ為ニ曲レ突ヲ、遠ク徙セニ其ノ薪ヲ」。不シバ^レ者且ニ有ラントニ火ノ患ヒ。」主人默然トシテ不レ心セ。俄ニシテ而家果シテ失火シ、隣里共ニ救フレ之ヲ。幸ニシテ而得タリ息ムヲ。於イテ是ニ殺シテ牛ヲ置酒シテ、謝ス其ノ隣人ニ。灼爛者ハ在リテ於上行ニ、余ハ各以テ功ヲ次ニ坐シテ而不レ録セ下言ニ曲突ヲ一者上。人謂ヒテ主人ニ曰ク『郷使ムレバ聽カニ客之言ヲ、不シテ費サニ牛酒ヲ、終ニ亡シニ火ノ患ヒ。今論シテ功ヲ而請フレ竈ヲ。曲突徙薪ニ亡シテ恩沢、焦頭爛額ヲ為ニ上客ト耶ト。』主人迺寤メテ而請フレ之ヲ。今茂陵ノ徐福數上書シテ言フ四霍氏且ニ有ラント^レ麥、宜シクニ防ニ絶ス之ヲ。郷ニ使メバニ福ノ説ラシテ得レ行フヲ、則チ國ニ亡クニ裂キ土ヲ出ダスレ爵ヲ之費、臣ニ亡シニ逆乱誅滅之敗。往事既ニ已ミテ而福独リ不レ蒙ラニ其ノ功ヲ。唯陛下察シテ之ヲ、貴ヒテ徙薪曲突之策ヲ、使メヨトレ居ニ焦髮灼爛之右ニ。」上迺^{たま}テ賜ヒテニ福ニ帛十疋ヲ、後ニ以テ為スレ郎ト。

(漢書)「霍光金日磾伝」

【大意】漢の宣帝時代に専横を極めた霍光の一族が誅殺され、その後、茂陵の徐福なる者の功績を訴えた上書の中に見える寓話である。ある家でかまどの煙突が突き出し、そのそばに薪が積んであったため、火事の恐れがあった。これを見た客は煙突を曲げて、薪は別の所に移すべきことを忠告した。しかし、主人は忠告を聞かずにはおいておいたところ、果たして火事が起きてしまう。隣人がこれに気づいて燃えさかる炎の中から主人を救出したため、主人は感謝してこの隣人に牛と酒を振る舞った。本来は火事を予見した客(曲突徙薪〈危機管理〉)が感謝されるべきのだが、大事になった後に命がけで救出してくれた隣人(爛額焦頭〈緊急避難〉)の方が重視される本末転倒な評価は現在でもしばしば見受けられる。徐福は霍光一族の異変を察知して早い時期から再三にわたって宣帝に上書

してきたが、その功績は今も評価されていない。そもそも彼の進言を聞いて事前に対処しておればこのような事態に至らなかつたため、討伐に手柄のあつた者と同等の待遇をするべきだといった主張である。宣帝は徐福に褒美と役職を与え、その功績を讃えた。

【鑑賞】 危険に際しては未然に予防することが本来は重要なはずですが、結局のところ窮地に陥ったときに助け船を出してくれた人物に恩を感じてしまうことが多いものです。ギリシャ神話におけるプロメテウスは人々に火を与えたことで有名であり、その知は「先見の明」と解かれています。普段は健康診断の結果などに耳を傾けずに不摂生な生活を送っていたところ、大病にかかつてしまい、手術に大金を支払ってまで患部を除去してくれた外科医に感謝するような事例は枚挙に暇がないことでしょう。高校生に向けては忠告をきかず窮地に陥って苦しむ前に当該成語に見られる予見性を読み取らせたいところです。

【発問例】

Q 故事成語「曲突徙薪」を読んで、大きな失敗を防ぐために普段からあなた自身が気をつけていることはどのようなことか。

Q 「曲突徙薪」と「爛額焦頭」について、あなたの身のまわりではそれぞれ具体的にどのようなことが思い浮かぶだろうか。

⑤ 《囊中の錐》…才能は環境を問わず

趙ノ相平原君公子勝ノ食客常ニ数千アリ。客ニ有リニ公孫龍ナル者一。為ニ堅白同異之弁ヲ一。秦、攻ムニ趙ノ邯鄲ヲ一。平原君求ムニ救ヒヲ於楚ニ一。扱ヒニ門下ノ文武備具スル者二十人ヲ一、与レ之俱ニセントス。得タリニ十九人ヲ一。毛遂自ラ薦ム。平原

君曰ク「士ノ処ルハ世ニ、若シ錐ノ処ルガ囊中ニ。其ノ末立チドコロコ見ハル。今先生処ルコト門下ニ三年、未ダ有ラレ聞コユルコト。」遂曰ク「使メバニ遂ラシテ得レ処ルヲニ囊中ニ、乃穎脱シテ而出デシ。非ストニ特ニ末見ハルル而已ニ。」平原君乃チ以テ備フレ数ニ。

〔十八史略〕「春秋戦国」

【大意】戦国四君の一人趙の平原君には数千人の食客があり、その中には名家の公孫龍などもいた。秦が趙の邯鄲を攻め、平原君は楚に救援を求める使者になった。平原君は同伴する二十人を決めるべく食客の人選をしたところ、これまで特段実績のなかった毛遂が自ら志願した。平原君は彼に向かって「優れた人物が世にいるのは袋の中に錐を入れるように、その先端（才覚）はすぐに突き出て現れるものです（囊中の錐）。今、毛先生が食客となられて三年が経ちますが、これまでどのような成果を出されたでしょうか」と軽くあしらったところ、毛遂は「私をこの袋の中に入れていただければ、すぐにでも才能を発揮してみせます」と答えた。果たして楚の国ではその勇氣ある態度で活躍し、平原君を驚かせ、楚と趙の同盟を成し遂げた。

【鑑賞】「どんな環境においても本当に優れた人物はその才能を発揮する」といった意味は多感な時期の高校生にとつて深い感銘を与えるものになるはずです。受験の結果、第一志望に合格する生徒は半数以下であるとされ、併願校に進学した場合、ささいなことがきっかけで環境に不平を託つ生徒を見かけることもありますが、「もし志望校に受かっていたら、バラ色の高校生活を送っていたはずだ」と現実逃避する者にはぜひとも伝えたい言葉です。「囊中の錐」は「袋の中に鋭利な刃物を入れる」状況もそれをイメージさせやすいことでしょう。どんな袋も突き通すはずですので、「本当に能力のある者は環境には左右されない」といった教訓を与えてくれるものとなります。

【発問例】

Q 故事成語「囊中の錐」を読んで、環境に左右されない能力を身につけるためにあなたは何ができるだろうか。

本編にも繰り返し述べておりますように故事成語はわが国でも独自の発展を遂げました。定番教材ばかりでなく、むしろ聞きなじみのない故事成語を取りあげて様々な観点からその魅力を伝えることで、学習者の新たな発見を導き、彼らの主体的な古典学習への意識づけが可能になるものと思います。